

JENESYS2016 (派遣プログラム)

(派遣国:東ティモール民主共和国 / 高校生)の記録

1. プログラム概要

対日理解促進交流プログラム JENESYS2016 の一環として、東ティモールに関心を有する日本の高校生および引率者 21 名が東ティモールへ派遣され、日本の経済、産学、歴史、自然、文化に関する理解促進や、日本の魅力等の積極的な発信を目指し、1 月 30 日から 2 月 8 日までの 7 泊 10 日の日程でプログラムを実施しました。在東ティモール日本国大使館、外務協力省を表敬訪問し、東ティモールの歴史と日本との関係性について学びました。国立リハビリテーションセンターでは、青年海外協力隊員の活躍を通して東ティモールの医療の現状と日本の支援について知りました。学校交流では、ソーラン節を披露したり、坊主めくりを東ティモールの生徒たちと楽しんだりと、レクリエーションを通じて日本文化を紹介しました。特定非営利活動法人パルシック (PARCIC) では、市民レベルでの民際協力とフェアトレードについて見聞を深めました。プログラムを通して多くの刺激を受けた参加者は、各々の気づきや体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前報告会では、派遣地での気づきと経験を活かした帰国後のアクション・プラン (活動計画) を発表しました。

【参加校・人数】

工学院大学付属高等学校 21名

【訪問国】

東ティモール民主共和国

2. 日程

1月30日(月)	【オリエンテーション】
1月31日(火)	羽田空港より出発 — ディリ着
	【視察】市内視察
2月1日 (水)	【表敬訪問】在東ティモール日本国大使館、外務協力省
	【ODA サイト視察】国立リハビリテーションセンター
2月2日(木)	【学校交流】カノッサ高等学校
2月3日(金)	【学校交流】セントピーター高等学校
2月4日 (土)	【ホームビジット】
2月5日(日)	【市内視察】【歴史的建造物】【伝統文化体験】タイベシマーケット、タ
	イスマーケット、クリストレイ、サンタクルズ墓地、カテドラル
2月6日(月)	【NPO 訪問】パルシック
	【ワークショップ】
2月7日 (火)	【報告会】ディリ発
2月8日(水)	羽田空港到着

3. プログラム記録写真



FNESYS

2/1【表敬訪問】

在東ティモール日本国大使館

[Courtesy Call] Embassy of Japan in Timor-Leste

2/1【表敬訪問】外務協力省

[Courtesy Call] Ministry of Foreign Affairs and cooperation





2/1【ODA サイト視察】

国立リハビリテーションセンター

[Visit] ODA Site National Rehabilitation Center

2/2【学校交流】カノッサ高等学校

[School Exchange Program]
Canossa Senior High School





2/3【学校交流】セントピーター高等学校

[School Exchange Program]
Saint Peter Senior High School

2/4【ホームビジット】

[Home Visit]

4. 参加者の感想(抜粋)

◆ 工学院大学付属高等学校 高校生

東ティモールの方々はとても明るく、初対面の私たちにも親しくしてくれてとても嬉しかったです。行程の中で一番印象に残ったのはカノッサ高校、セントピーター高校との学校交流です。日本で準備したプレゼンテーション、実演、そして現地学生とのコミュニケーションなどとても良い時間を過ごすことができたと思います。東ティモールの伝統的な文化であるタイスをいただいたり、katupa というココナッツの葉を使った編み物を一緒に作ったり、東ティモールの文化や人間性を実感することができました。また東ティモールで活躍している日本人(国立リハビリテーションセンターと PARCIC)の方々を見てかっこいいと感じました。今後は東ティモールの良い点を学校などで広めていきたいと思います。

◆ 工学院大学付属高等学校 高校生

プログラムに参加する前は少なからず「東南アジアの近年独立した比較的貧しい国」という認識をしていました。しかし東ティモールを訪れ、現地の同世代の子やホームビジットを通してその認識が間違っていたことを実感しました。確かに貧しくないとは言えませんが、主食のいも類は美味しく、市場では大量の服や日用品が売られ、道路は舗装されていて電気も通り、人々はスマホを携帯しています。また天然ガス・石油の資源にも恵まれています。そして何よりそこに住む人々が優しく思いやりがあり、家族を愛していることを感じました。いったい今までは何を基準にして貧しいのか、豊かなのかを決めていたのか恥ずかしく思います。それを身をもって体験できたことはありがたいことです。

日本に帰ってからは、現地で友達になった子と日本の写真や文化について SNS でやりとりをして日本についてより詳しく知って興味を持ってほしいと考えます。また東ティモールの歴史を友達や家族に伝え、もっとこの国のことを知ってもらいたいです。

◆ 工学院大学付属高等学校 高校生

現地の方々の懐の深さや温かい笑顔、おもてなしが印象的でした。この経験を通じて、英語を学ぶだけでなく活用することの大切さを痛感しました。今回このプログラムに参加したおかげで、引っ込み思案で人前でうまく話せなかった自分が自ら現地の方々と進んで交流を深めることができました。日本に帰っても積極的に人と関わることができたらいいなと思っています。そして自分の目で見て、感じた東ティモールの魅力を身の周りの人に伝えていき、少しでも東ティモールに興味を持っていただけたらいいなと思います。

5. 受入れ側の感想

◆ カノッサ高等学校 高校生

日本の高校生たちの発表はとても素晴らしかったです。日本の文化、歴史などについて知ることができ、視野が広がりました。日本の高校生たちは東ティモールの食べ物に挑戦したり、民族衣装を着てみたり、とても楽しんでいたようでした。学校交流では一緒に色々なアクティビティをしましたが、彼らはとても優しく、沢山のことを話しました。今回のような学校交流プログラムが今後もずっと続いていくことを期待しています。このような機会は東ティモールの高校生にも良い刺激となると思います。

◆ セントピーター高等学校 高校生

日本の高校生がセントピーター高校へ来てくれて本当に嬉しく思います。日本の高校生達の発表はとても良かったと思います。日本について多くのことを知ることができました。ソーラン節の踊りや坊主めくりが楽しかったです。また彼らが、東ティモールの言葉であるテトゥン語で挨拶や自己紹介をするなど、学ぼうとしてくれていて嬉しかったです。授業見学では日本の高校生と東ティモールの高校生が一緒になって勉強をして一体感が感じられました。新しい日本人の友達ができてとても嬉しいです。

◆ セントピーター高等学校 高校生

今回の学校交流での、日本の高校生達の発表とパフォーマンスは東ティモールの高校生達にとっては知らないことばかりでとても楽しかったです。特にソーラン節などの踊りはセントピーターの高校生にも大ウケで、一緒に踊ることもできて楽しかったです。また日本の文化や伝統的な食べ物、日本の学校教育なども知ることができました。お互いの文化や日常生活について教え合ったり、東ティモールと日本の違いについて知ることができ、たくさんの友達をつくることができました。日本の高校生の皆さんが、私達に多くの気づきを与えてくれたことに感謝します。

6. 参加者の対外発信

今日は、リハビリセンターなど色々なところを回りました。

リハビリセンターでは、義足の作り 方など学べたので良かったです。 東ティモールの人は、優しくフレン ドリーな人たちでした。



THE REAL PROPERTY.

Kaito_8NGJr. @boykaito1002:3日 セントピーター高校で少しだけ授業に参加させ ていただきました!!

テキストはポルトガル語で書かれていて、読む ことは難しかったのですが、図などを見てみる と、意外と自分達も習ったことのあるようなも のもあり、とても驚きました!

#JENESYS2016

#JICE



国立リハビリテーションセンターで義足の 作り方を学ぶ。2/1 Twitter で発信

The delegates learned about how to make artificial leg at National Rehabilitation Center. Posted on Twitter.

セントピーター高等学校で授業参加。教科書はポルトガル語。2/3 Twitter で発信

Attended classes at Saint Peter Senior High School on trial. The students use text book written in Portuguese. Posted on Twitter.

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

School festival "Timor-Leste café"

- · Sell cups of coffee , cookies by PARCIC
- · Interior design in the style of Timor-Leste
- · Handmade guide book
- · Display pictures and tais



Making guide book 1

Source of information

- · Our experiences
- Interview
- · Book of language
- · Information exchange with Timorese students
- · Timor map



学園祭で「カフェ・ティモール」をオープ ンしパルシックのコーヒーとクッキーを販 売する。 東ティモールの観光ガイドブックを作成する。

[Action Plan 1] To introduce Timor-Leste the delegates will open "Café Timor-Lest" on school festival and offer Timor coffee produced by PARCIC. [Action Plan 2] To make tour guide book of Timor-Leste for introducing this country.